

マドエース

特長

マドエースは、窓周りの気密・防水に優れ、同時に室内外の温度差による結露を防止出来る、他にない特長を持ったパッキン材です。

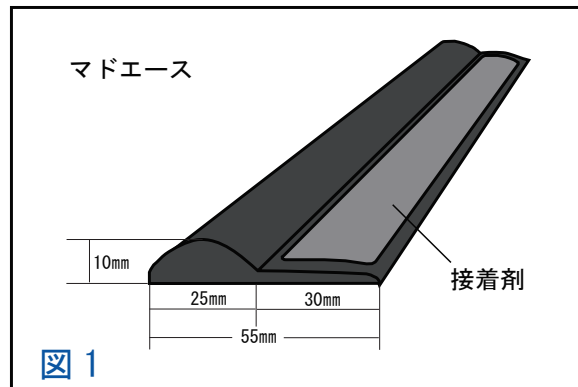


図 1

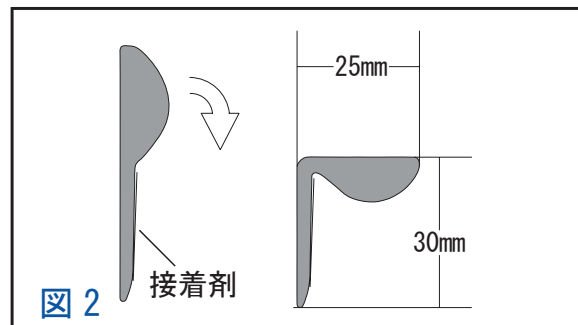


図 2

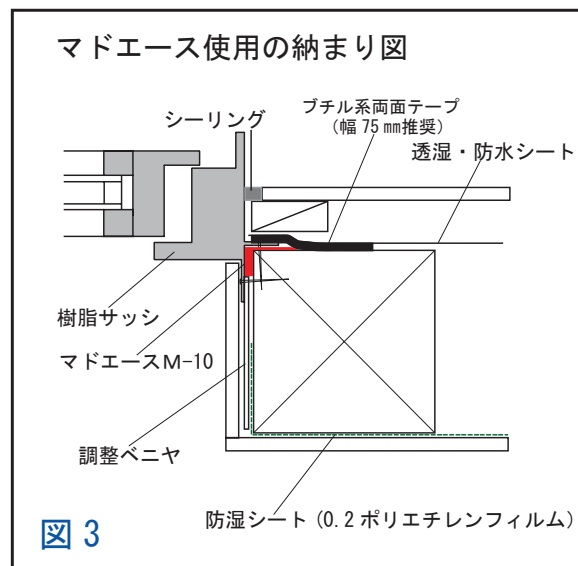


図 3

取付・施工

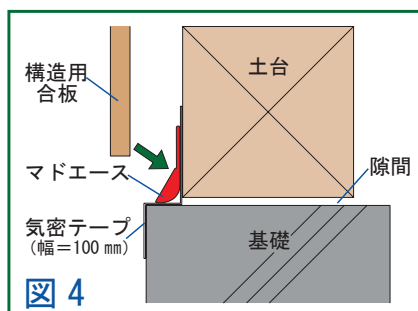
特殊形状（図1）のマドエースを窓枠の外側に離型紙を剥がしながら、厚い部分が内側に入る様にして貼り付けます。マドエースは下・横・上の順で張付け、内側に厚い部分を折り込んでサッシを取り付けます。サッシの外周部に両面のブチル系・気密テープ（75mm幅を推奨）を貼り、透湿・防水シートをその上から圧着します。



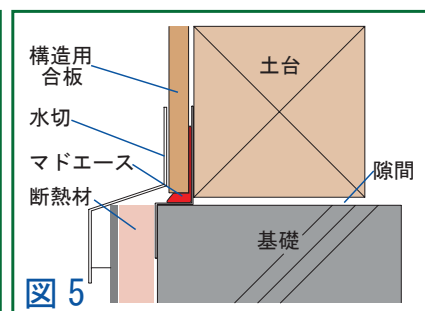
応用施工事例

断熱改修工事で基礎断熱を行った現場で、マドエースを応用施工した事例をご紹介します。

床下断熱の住宅を基礎断熱に改修工事する際は、土台パッキン等が使用出来ません。マドエースを使用することで基礎と土台部分の隙間を無くし、確実に気密性を向上出来ます。



気密テープで防水処理しマドエースを施工



マドエースを構造用合板で圧着しながら施工

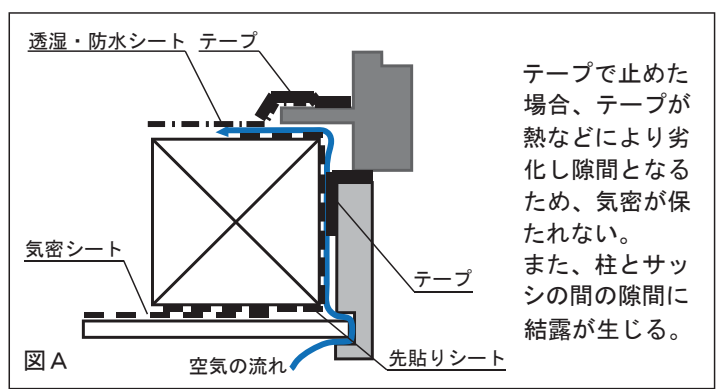
サッシ廻りの良くない例

(新在来木造工法マニュアル 1995 年版より抜粋)

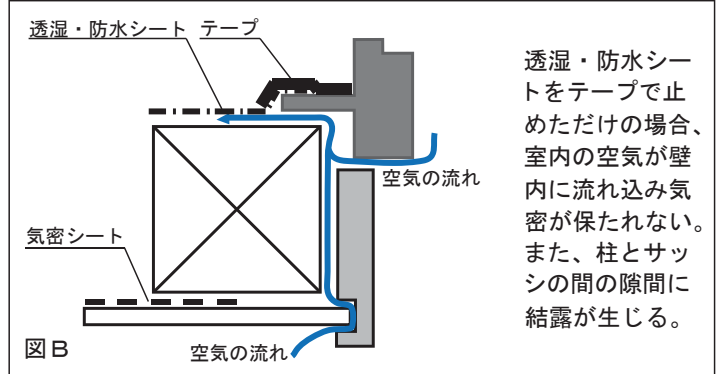
従来のマニュアルではサッシの下地枠に気密シートの先張りを行い、その上にサッシを取り付け、サッシ本体と先張りシートを気密テープで接着する方法を取っていたが、窓廻りは太陽熱で温度差も大きく、テープとシートがはく離を起こし易いことがわかった。

(図 A)

また、一般に図 B の方法が採られることが多いが、サッシのつばと木下地の間にパッキンを入れればよいが、この部分に木部の乾燥によって隙間が生じてしまう。

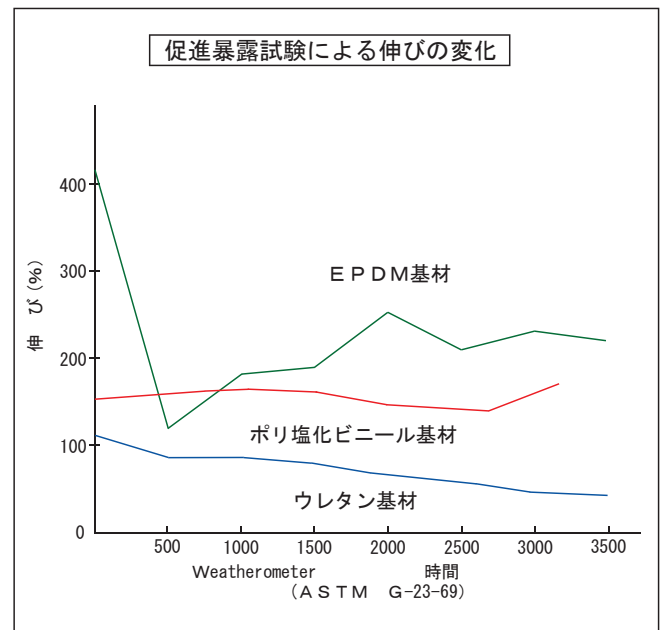
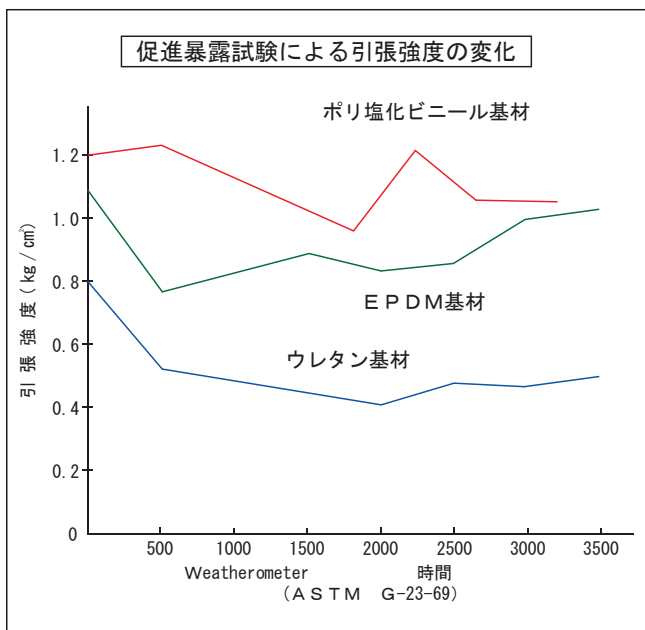


テープで止めた場合、テープが熱などにより劣化し隙間となるため、気密が保たれない。また、柱とサッシの間の隙間に結露が生じる。



透湿・防水シートをテープで止めた場合、室内の空気が壁内に流れ込み気密が保たれない。また、柱とサッシの間の隙間に結露が生じる。

性能



マドエース水密性能試験

- 日 時 平成 14 年 11 月 8 日
- 試験機関 北海道立北方建築総合研究所

試験結果は JIS A 1517 による中心圧力 500Pa の試験において、にじみ出し等がみられなかった。なお、設定した中心圧力は JIS A 4706 サッシによる水密性等級 W-5 に該当する。

